



NEWS LETTER かながわ

2014年度 第2号(通巻第16号)

2015年3月 神奈川支部発行

連絡先 e-mail: jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp

巻頭言

副支部長 秦野 悦子

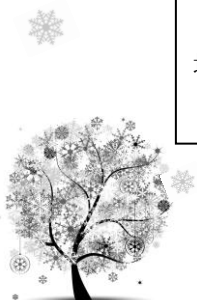
神奈川支部活動のバトンをつなぐ

2006年5月に650人超の会員をかかえた関東支部が都県単位に分割し、200人超規模の神奈川支部が誕生しました。神奈川支部1期と2期は、横浜国立大学の関戸英紀先生を支部長として土台作りが始まりました。

この間の最も大きい活動として、第7回全国大会を神奈川支部で行ったことでした。開催1年前から、毎月の役員会を拡大実行委員会として準備が進められました。準備の途中で2011年3月の東日本大震災があり、人々の防災意識が大きく変わり、被災地である東北支部会員へ届けたい気持ちや力などを大会に反映するために、多くのプログラムの変更を経て実施に至りました。当日は台風対策も必要となった荒れた天候でした。

しかし、この大きな活動への力の結束を通して、支部活動のノウハウや、役割分担、作業の分掌が大きく整理されてきました。2013年度の神奈川支部3期からは、三隅輝見子支部長を拜して、より合理的、組織的活動が推進されてきました。ひとり一人が、臨床発達心理士として自身の研究活動、教育活動、臨床活動はもちろんのこと、ひとはみんなのために何ができるかを考え、それぞれの人生のどこかの時期には、できることを担いながらバトンをつないでいく営みをしていくことが大切だと身をもって体験しました。

さて、2015年度から神奈川支部4期の活動が始まります。地域に密着した領域別の継続的研修などの取り組み、また魅力的なプログラムなどが進んでいくよう、支部会員ができることを協力して進めてまいりましょう。



神奈川支部研修会報告



テーマ：「子どもの発達を促すためのペアレントプログラム-神奈川県共同事業について-」

日時：2015年1月31日（土）午前・午後

場所：bono 相模大野 ユニコムプラザさがみはら セミナールーム

参加者：104名（神奈川支部会員:75名、他支部29名）

<午前の部>

「子どもの発達を促すためのペアレントプログラム-神奈川県共同事業について-」

講師：尾崎 康子先生(相模女子大学)

このプログラムは、神奈川県と相模女子大学との共同事業で、相模女子大学の子育て支援事業の中での発達障害の子育て支援システムとして提案されたものとのことです。同大学の子育て支援センターで実践されているこのプログラムのご紹介をいただきました。子育て支援は子ども対策ではありますが、生涯を通して、子の支援の中心は親であり、支援者としての保護者にも学んでもらえるための取り組みがなされていることなどのお話しでした。

「自閉症スペクトラムの診断意義と発達支援について-最新の研究知見と現場からの報告-」

講師：金井 智恵子先生(昭和大学)

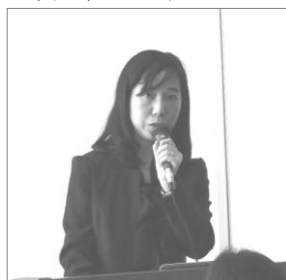
前半では、まず、最新の「自閉症スペクトラム障害(ASD)」の診断において、DSM-IVからDSM-5への変更点について説明がありました。続いて診断基準や記載についてのお話をいただきました。ASDの診断であってもADHDの特徴がある場合や、ADHDの場合でもASDの特徴があれば同時に二つの診断を併記することが可能になったこと、ADHDは年齢の要素も考慮しつつ現状を優先する記載の方向へと変化しているなどのお話しでした。加えて、ASDの子ども数が増加傾向にある要因などを先生の研究を通してうかがいました。

後半では、早期診断・早期療育を通して発達を促し、継続的な家族支援につなぐことの大切さとともに、共同事業である「ペアレントプログラム」の一つである「こぐまクラブ」の実践についてのお話をいただきました。2歳児から4歳児の子どもと保護者で構成される「こぐまクラブ」では、主に様々な子どもがいることに配慮していること、こぐまクラブでの活動を家庭での親との遊びの実践につなげること、子どもの成長を理解してもらうことを重視して親子活動がなされている様子をうかがいました。またこの活動に関する保護者の期待も高いことが報告されました。
(文責：矢島 友子)

尾崎 康子 先生



金井 智恵子先生



<午後の部>

「社会的コミュニケーション発達を促すペアレントプログラム」

講師：尾崎 康子先生(相模女子大学)

はじめに、発達障害児の発達支援と親支援に関する現況として、種々の発達支援プログラムや親支援プログラムについて、行動的アプローチ・発達論的アプローチ・包括的アプローチの三つの類型のもとに、プログラムの位置づけや変遷をお話いただきました。そして、テーマに関連して、発達論的アプローチ、さらに、社会的認知について詳しくお話いただきました。近年、発達研究の焦点は事物の認知発達から社会的認知発達へと移行してきています。社会的認知発達は乳児の意図の気づきから、共同注意能力の獲得、心の理論につながるもので、社会的相互作用によって連続的に発達します。発達障害における社会的認知障害については、共同注意の困難や心の理論障害などが挙げられていました。さらに、社会的認知の発達に関して、共鳴動作や情動調律、共同注意などについてお話いただきました。

そして、今回のテーマである「社会的コミュニケーション発達を促すペアレントプログラム」についてお話いただきました。このプログラムは、発達論的アプローチに基づき、日常生活の自然な環境において親子の相互作用を重ねることにより、社会的コミュニケーション発達を促すものです。親は子どもの発達と特性を理解し、それに基づいた相互作用を生じる関わり方を学びます。最も重要な目的は、親が子どもを理解し、子育てに自信を持つこと、とのことです。さらに、社会的コミュニケーションの発達段階や子どもへの関わり方、「親子ふれあい遊び」の内容等についても具体的にお話いただきました。(文責：吉田 麻衣)

テーマ：「感覚・運動発達を促すペアレントプログラム」

講師：トート・ガーボル先生(相模女子大学)

最終講義の講師は、ハンガリーご出身で障害児の運動発達について、長年臨床研究をなさってきた先生です。講義では、本国で特別支援学校の教員、作業療法士、言語聴覚士としても、活躍されてきた先生の臨床現場でのエピソードをまじえながら、発達障害の子ども達の身体感覚を脳の機能発達と関連づけながらわかりやすく解説いただきました。感覚発達と運動発達が、相互に影響しあいながら発達し、身体感覚をベースに認知発達が進む過程や、感覚処理障害の視点から発達障害児の特性についてもお話がありました。

また、子育て支援センターの子育て支援事業として生後3ヶ月～3歳児までを対象にした、感覚運動プログラム「ベビー発達体操」についてもお話いただきました。男性ならではの視点から、父親が育児に参加しやすいよう週末を利用したプログラムの開催や、夫婦で取り組めるベビー発達体操の紹介など、最新の運動発達知見の解説から実践例の報告と多岐にわたる内容を解説いただきました。(文責：藤原 明子)

トート・ガーボル先生



会場の様子



神奈川奈川県支部研修会についてのアンケート結果

「子どもの発達を促すためのペアレントプログラム-神奈川県共同事業について-」

参加人数：104名（神奈川支部会員：75名、他支部29名）：アンケート回収率73%

アンケートにご協力いただきありがとうございました。結果を集計しましたので概要をご報告いたします。

1. 午前の研修について

- 「子どもの発達を促すためのペアレントプログラム-神奈川県共同事業について-」：尾崎康子先生
- 「自閉症スペクトラムの診断意義と発達支援について-最新の研究知見と現場からの報告-」：金井智恵子先生

<午前の研修内容へのご意見・ご感想>

- 地域の活動について具体的に伺えたのがよかった。自らの現場でどう活かせるか考えたい。
- 自分が学びたいことがタイムリーに示され、理論と実践もわかりやすくとてもよかった。
- 区役所等の事業との連携やすみわけ協力はどうなっているか等、もっと知りたいと思った。
- ASDについて縦断的研究など最新情報も交え、整理して説明いただき、参考になった。最近の動向もよく解った。
- ぜひ他支部にも来て、研修を行って頂きたいと思った。

2. 午後の研修について

- 「社会的コミュニケーションの発達を促すペアレントプログラム」：尾崎康子先生（相模女子大学）
- 「感覚・運動発達を促すペアレントプログラム」トート・ガーボル先生（相模女子大学）

<午後の研修内容へのご意見・ご感想>

- 社会的コミュニケーションを促す具体的な取り組み、身体運動・感覚運動を評価する視点を学ぶことができた。
- 実践的な話題をあげていただけだったので、今後の支援に活かしていけそうと思った。
- 発語以前の周りの人(母親)との相互作用が言語発達のみならず、発達全般にとっていかに重要か改めて感じた。
- 実践に役立つ有用な講義だった。特に「感覚・運動発達」は、なかなか研修を受ける機会が無く、初めて知ることも多く、大変勉強になった。感覚運動プログラムは親子共に元気をもらえるものと感銘を受けた。
- また研修をお願いしたい。プログラムの具体的内容をもっと知りたいと思った。

アンケート係より

今回も遠方からの他支部の方を含め、一日を通して多くの方に参加をして頂きました。

「時間が足りない印象を受けた」、「質問の時間が欲しかった」というご感想もありました。またマイクの音量などの会場設備についてのご意見など、今後の研修会に活かしたいと思えます。多くの皆様のアンケートへのご協力、ありがとうございました。

(文責:橋爪 美津子)

神奈川支部からのお知らせ

神奈川支部 2015 年度 総会および第 1 回研修会

- 日時：2015年 4月 26日（日） 10：00～16：30（1.5ポイント）
- 会場：ユニコムプラザさがみはら bono相模大野 南棟3階（小田急「相模大野」駅北口から徒歩3分）
- 研修会 講演1：「運動発達障害の理解と支援 - 特に精神発達面に焦点を当てて -」
講師：半澤 直美先生（よこはま港南地域療育センター）
- 講演2：「重い障害のある子どもとのコミュニケーションを考える」
講師：齊藤 由美子先生（国立特別支援教育総合研究所）

※ 詳細は、別紙案内をご覧ください。

★ SOLTI への登録は、もうお済みですか？ ★

日本臨床発達心理士会が会員情報管理システム（SOLTI）を導入したことに伴い、2015年から、研修会等の情報を支部会員にメール配信でもお知らせする予定です。（当面は、現在の紙面での郵送も行います）
メール配信は、SOLTI の情報に誤りがあると、届かない可能性があります。登録情報に間違いがないか、今一度、各自でご確認ください。

2014 年度役員会の報告

- 第 1 回 2014 年 4 月 27 日 17:00～18:00 ユニコムプラザさがみはら
定例総会にむけて、今年度の予定について
- 第 2 回 2014 年 10 月 19 日 15:00～17:00 ユニコムプラザさがみはら
国家資格法案の動向、幹事会報告、全国大会報告、災害支援、広報等について
- 第 3 回 2014 年 12 月 27 日 15:00～17:00 ユニコムプラザさがみはら
来年度体制について
- 第 4 回 2015 年 2 月 28 日 10:00～12:00 横浜市青少年育成センター
定例総会にむけて年度報告と次年度計画、来年度の役員体制・役割について



〈編集後記〉

日よっての寒暖の差が大きく体調を崩しやすい時季ですが、お変わりなくお過ごしでしょうか。年度末が近づき、皆様ご多忙のことと思います。ニューズレターでは神奈川支部研修会の報告や職場紹介など、年 2 回の配信で支部会員の皆様にお送りしています。さらにホームページには、よりタイムリーな情報を随時掲載しています。ぜひこちらもご利用ください。

（広報担当：武部 正明・白馬 智美）